

## 2代目はヤマハならではの レーシングヘリテージ



### XSR900 ABS SPECIFICATIONS

全長×全幅×全高	2,155×790×1,155mm
ホイールベース	1,495mm
最低地上高	140mm
シート高	810mm
車両重量	193kg
エンジン形式	水冷4ストDOHC4バルブ並列3気筒
総排気量	888cc
ボア×ストローク	78.0×62.0mm
圧縮比	11.5
最高出力	88kW (120PS) /10,000rpm
最大トルク	93N・m (9.5kgf・m) /7,000rpm
燃料供給方式	フューエルインジェクション
燃料タンク容量	14L
キャスト角	25° 00'
トレール量	108mm
変速機形式	6速リターン
ブレーキ前・後	ダブルディスク・シングルディスク
タイヤサイズ (前・後)	120/70ZR17M/C (58W)・180/55ZR17M/C (73W)

最新スペックの電子制御デバイスで  
ポテンシャルを最大限に引き出す

2016年にデビューした初代XSR900は、MT-09譲りの水冷並列3気筒エンジンやアルミ製フレームといった現代的なメカニズムに、ヤマハ製の歴代レーシングマシンをバックボーンにしたレトロ口でスポーティなスタイリングを組み合わせたスポーツヘリテージ。オーソドックスなスタイルと、優れたパフォーマンスを兼ね備える個性的な存在として根強く支持されてきた。

初のフルモデルチェンジを受けて2022年に登場した現行XSR900は、ベースのMT-09同様、排気量が拡大されたエンジンや新たなフレームなどでポテンシャルをアップ。メカニズムも進歩し、スポーツバイクとして大幅に進化を遂げた。それと同時にイメージを変更。1980年代のレースシーンをモチーフにしたディテール満載の、よりモダンでレーシーな雰囲気になった。

これらの変化は、すべて「The Expert of Equestrian」(伝統馬術のエキスパート)というXSR900の開発コンセプトに基づいたもの。「人機一体で乗る楽しさ」に加え、またがった時の高揚感、所有する喜びまでを満たすことを目指した、新たな世代のスポーツヘリテージモデル。それが新型XSR900だ。

1980年代レーシングマシンをイメージさせるレーシーなスタイル

に合わせ、新型MT-09に由来するメカニズムを採用して性能を向上。排気量を従来の849ccから888ccにまで拡大し、細部まで熟成を進めてパワーアップした水冷並列3気筒エンジンや、ヤマハが得意とする最新の製造技術を駆使した新しいアルミフレームと軽量ホイールなど、ハード面で進化した部分も多い。

IMUを搭載して実現された最新スペックの電子制御デバイスは、トラクションコントロールやスライドコントロール、リフトコントロール、ブレーキコントロールを備えるだけでなく、それぞれが相互に連動することで効果を高め、ライダーがマシンのポテンシャルを最大限に引き出すことを可能にしている。

オーソドックスな丸型LEDヘッドライトは、バンク時の配光特性にまで配慮した新開発のユニットを採用。フルカラー液晶メーターも、コンバクトな中で多彩な機能と見やすさを両立している。さらにクルーズコントロールが標準装備されているなど、日常的な使い勝手の良さも高いレベルだ。

2024年モデルは、カラーリングを変更。新しいカラーは1980年代のヤマハGPファクトリーマシンYZR500へのオマージュとして誕生したXSR900GPとリレーションを図った2色展開。特にシルキーホワイトはヤマハ伝統の白/赤を組み合わせたスポーティなカラーとなっている。